



文責
伊平屋村
教育委員会
松田 哲市



ようこそ(てるしの)の島 伊平屋村へ
「すべての村民で魅力ある学校づくりを」

令和4年度

「伊平屋村教職員激励会・施策説明・教育長講話」

令和三年四月四日(月)伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて、伊平屋村教職員激励会が挙行された。名嘉律夫村長の激励の挨拶では、島発ちを見据え、新たに赴任された教職員へのお祝いとして、一つ目に「子ども達に寄り添い、子ども目線で考える教師であってほしい。」二つ目は「地域とともにある学校づくりを推進してほしい。」と伝えた。また「地域づくりの核としての学校」、「地域とともにある学校づくりを期待している。」と、新教職員を激励した。

村校長会会長の 大田守利校長(伊平屋中)の歓迎のあいさつでは、今年度より教育課程に位置づけられた月一度の『伝統文化学習の日』の紹介や十五歳の島発ちに向け「気づき、考え、行動できる」自立した児童生徒の育成を呼びかけ、新職員を激励した。

新任教職員を代表して玉寄兼明校長(野甫小中)、平良志郎教諭(伊平屋中)が決意の言葉を述べ、伊平屋村の児童・生徒のために尽力したいと熱く語った。

今年度の新規赴任者は十四名、初めての離島勤務や教職経験の浅い教職員も多い。教育委員会としても赴任された教職員が一日も早く島の生活に慣れ、子ども達と充実した日々を送ることができるよう支援していきたい。

すべての島民が一つのチームとなり、子ども達・教職員・保護者・地域にとって「魅力のある学校づくり」に取り組んでいきたい。

伊平屋教育委員会

施策説明及び教育長講話

教職員激励会の後に松田哲市指導主事による「教育施策説明」と与那覇了教育長による「教育長講話」が全教職員を対象に行われた。新任教職員だけでなく、二、三年目の教職員にとっても、村の教育目標や教育主要施策等を把握し、伊平屋村に赴任した教師としての心構え等を再確認する機会となった。

【教職員の振り返り】より

- 伊平屋村の子ども達は十五歳で島を出て、ひとり立ちするという話を聞き、とても感動した。そのような自立性を養える教育を伊平屋村で実施していけるよう頑張りたい。
- 子供にとって魅力のある学校にするために、何が出来るかを今後考えていきたい。また、social5.0の話聞いて、時代のニーズに対応した教育を意識して、尽力していきたい。
- 講話の中で、一番印象に残ったのが「みんなで創る島の教育、どうしたらできるかを考え続ける」でした。国や県の教育界の動向の説明もありましたが、これに頭をつかって島の子どものためになる教育をしなくてはと思いました。生涯にわたって、島の子どもたちが学び続ける意欲が高まるような学習内容や学習環境になるように、教職員皆で知恵を出し合って、頑張りたい。



伊平屋小学校 新任職員



伊平屋中学校 新任職員



野甫小中学校 新任職員